

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 194 人

② 数学 195 人

③ 英語 195 人

5 留意事項

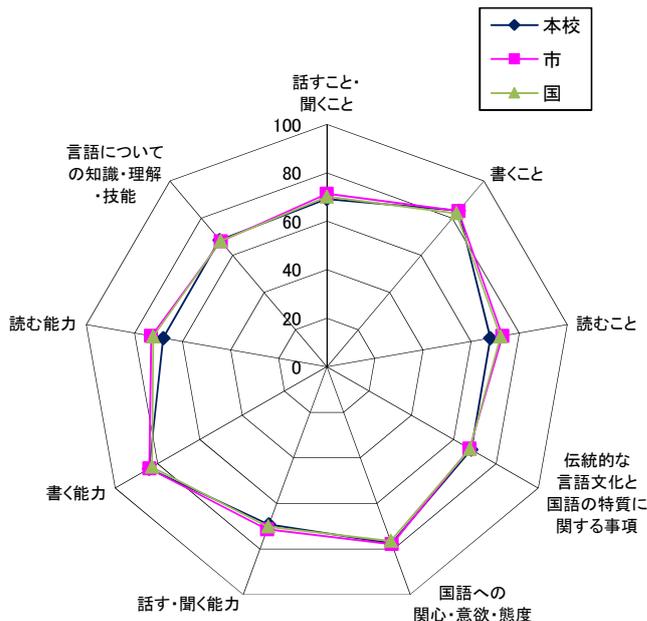
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.2	71.4	70.2
	書くこと	84.0	83.9	82.6
	読むこと	68.0	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	77.5	77.9	76.5
	話す・聞く能力	69.2	71.4	70.2
	書く能力	84.0	83.9	82.6
	読む能力	68.0	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	68.3	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

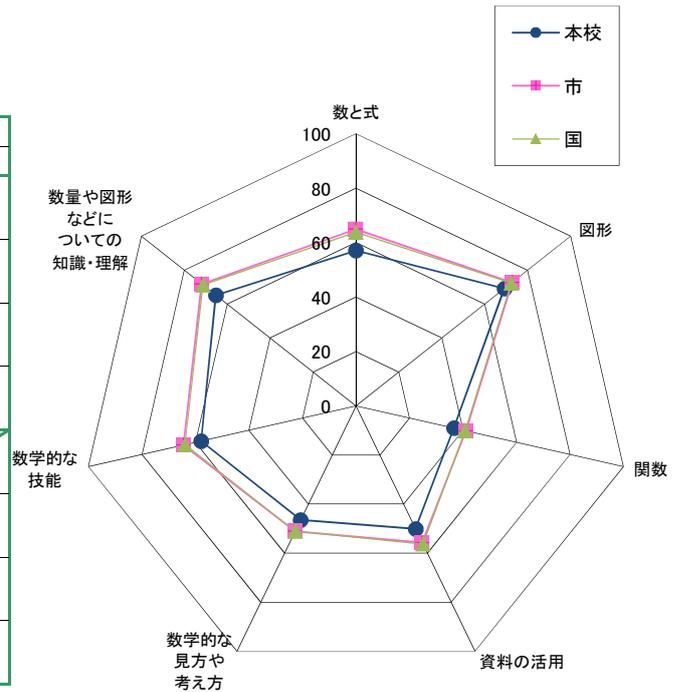
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>話すこと・聞くことの平均正答率は、全国平均をわずかに下回る(-1.0)。 ○話し合いで、発言の役割を捉える問題の正答率は80.4%(全国差±0)で、話題や話し合いの方向を捉える力は身につけている。 ●話し合いで、相手に分かりやすく伝わる表現について理解しているかを見る問題の正答率は66.5%(全国差-3.2)で、課題である。</p>	<p>・話すことについては、グループ活動での話し合いを通して指導の機会を作ってきた。今後は発表の指導を通して、伝わりやすい表現を工夫させていく。 ・聞くことについては、単元末テストの際に聞き取りテストを実施したり、授業で聞き方の指導を取り入れたりと、取り組んできた。今後も続けて指導していく。</p>
書くこと	<p>書くこと平均正答率は、84.0%(全国差+1.4)で概ね満足できる結果であった。 ○論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題の正答率は87.1%(全国差-0.3)で、文章中での語句の使い方が、概ね身につけている。 ○伝えたい事柄の根拠を明確にして書く問題の正答率は80.9%(全国差+3.1)で、根拠を書く技能が身につけている。</p>	<p>・書くことについては、300字程度の短作文を数多く書かせる指導をしてきた。今後は伝わりやすい語句や文を意識して書くよう指導していく。 ・表現する力を伸ばすため、意見を言う際には理由も述べるよう、国語以外の先生方にも協力を仰ぎ、指導してきた。確実に成果が表れているので、今後継続していく。</p>
読むこと	<p>読むこと平均正答率は、68.0%(全国差-4.2)で、課題である。 ○短歌に表れたもの見方や考え方を捉え、自分の考えを述べる問題の正答率は90.7%(全国差-0.5)で、満足できる結果である。 ●文章に即して情報を整理し、内容を捉える問題の正答率は53.6%(全国差-7.9)と低く、課題である。</p>	<p>・読むことの指導では、詩や文章に表れたもの見方や考え方を捉え、自分の考えを持たせる学習をしてきた。また、学び合いを通して、視野を広げる指導をしてきた。 ・文章と図やグラフなどの資料を関連付けて捉える力が十分身につけていない。今後は、文章と複数の資料を総合的に読み取る指導の機会を増やす。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の平均正答率は、68.3%(全国差+0.6)で満足できる結果であった。 ○封筒の書き方を問う問題は59.8%(全国差+3.0)の正答率であった。 ●省略表現の使い方について問う問題の正答率は76.8%(全国差-1.9)で、適切な言葉の使い方を指導していく必要がある。</p>	<p>・手紙などのさまざまな文章を書く機会が減っている。指導するとともに、お礼状や案内状など実際に手紙を書いて出す機会を作る。 ・現代語や省略語、方言や言葉の変化など、日本語の特徴を理解させ適切に使う方法を考えさせる。</p>

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	57.1	64.9	63.8
	図形	69.2	72.8	72.4
	関数	36.6	41.1	40.8
	資料の活用	50.1	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	46.5	51.1	51.0
	数学的な技能	57.9	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.3	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

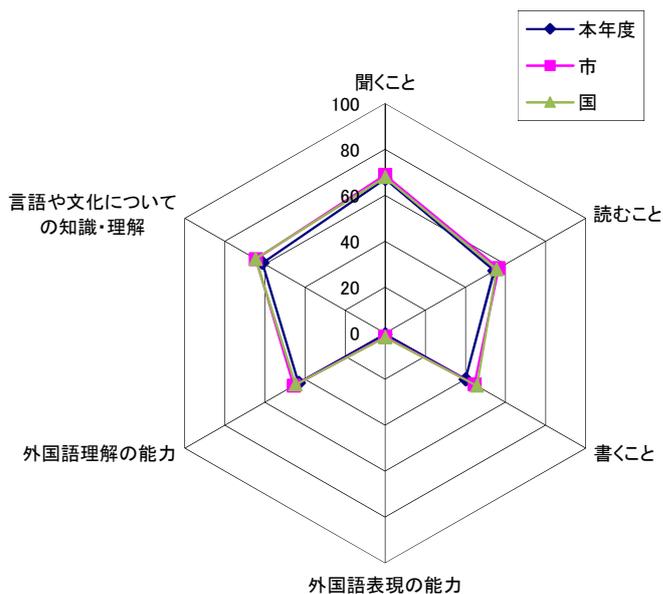
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、県の平均より7～8ポイント程度低い。</p> <p>○連続する4つの奇数の和が$4(2n+4)$で表されたとき、$2n+4$はどこにある数かを選ぶ問題は、ほぼ県平均と同じぐらい이었다。</p> <p>●理解の遅い生徒には、机間指導や、T、TIによる指導で対応してきたが内容の定着までには至っていない。</p>	<p>・基本的な計算の技能が定着しない生徒に対しては、個別指導を充実させていく。</p> <p>・また、1・2年で学習した内容を忘れがちなので、授業の中で既習の内容も取り扱う。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均より3～4ポイント程度低い。</p> <p>○反例の意味を理解する問題は、県平均を上まわっている。</p> <p>●その場で考える問題は、複雑な問題ととらえてしまう傾向がある。</p>	<p>・最初から図を与えずに問題文のみを与え、自分で正確な図を書き、必要な情報を図に書き込み問題を解決していく。</p> <p>・四角形の包含関係を理解させる。</p>
関数	<p>平均正答率は、県の平均より4～5ポイント程度低い。</p> <p>○反比例の表から式を求める問題は、県平均と同じである。</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが苦手である。</p>	<p>・関数の指導については、表・式・グラフの3つの繋がりを意識して活用し、問題を解決していく。</p> <p>・特に、グラフを頭の中でイメージして、グラフを活用していく力を付けていく。</p> <p>・できるだけたくさんの生徒に、全体の前で説明させ、全体の理解度を向上させる。</p>
資料の活用	<p>平均正答率は、県の平均より5～6ポイント程度低い。</p> <p>○資料の傾向を的確に捉え、数学的表現を用いて説明することができるという部分は、ほぼ県平均と同じである。</p> <p>●表やヒストグラムを使い、平均・メジアン・モードを活用することが苦手である。</p>	<p>・資料の活用では表やヒストグラムをつかい、平均・メジアン・モードを学習させる。</p> <p>・簡素で目的に合った表やグラフの作成能力が問われるので、関数の時間を中心に、表・式・グラフの3つの繋がりを意識して、問題を解決していく能力を養う。</p>

宇都宮市立若松原中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	67.2	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	54.4	56.5	55.6
	書くこと	40.1	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	0.5	1.5	1.8
	外国語理解の能力	43.2	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	61.2	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する能力は県平均より上回った。</p> <p>●会話を聞いて、情報を正確に聞き取る能力は県平均より5ポイント下回った。</p>	<p>・授業の導入での生徒との英語のやりとりや、教科書の対話をリスニングとして扱い、情報を正確に聞き取れるように指導する。</p>
話すこと		
読むこと	<p>○日常的な話題について、簡単な英文で書かれたものの内容を正確に読み取る能力は県平均より2ポイント上回った。</p> <p>●まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解する能力は県平均より下回った。</p>	<p>・教科書の本文などのまとまりのある文章を読んでいきながら、単語・文法や文の構造を理解させる。</p>
書くこと	<p>○与えられた英語に対して、会話が成り立つように英文を書く能力は県平均より3ポイント上回った。</p> <p>●与えられたテーマについて、まとまりのある英文で書く能力は県平均より下回った。</p>	<p>・授業中に教科書のスキットの英文の構造を理解させ、短文でもよいので、ミスを恐れることなく書かせる。</p>

宇都宮市立若松原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」(肯定割合73.9% 全国との差-4.1%)
- 「家の人と学校での出来事について話をしますか」(肯定割合81.5% 全国との差5.1%)
- 「自分には良いところがあると思いますか」(肯定割合78.9% 全国との差4.8%)
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれると思いますか」(肯定割合86.7% 全国との差5.2%)
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」(肯定割合76.9% 全国との差6.6%)
- 「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」(肯定割合87.2% 全国との差4.4%)
- 「読書は好きですか」(肯定割合78.0% 全国との差10.0%)
- 「新聞を読んでいますか」(肯定割合7.7% 全国との差-5.0%)
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」(肯定割合37.4% 全国との差-13.2%)
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」(肯定割合44.1% 全国との差4.7%)
- 「学校の部活に参加していますか」(肯定割合81.5% 全国との差-5.1%)
- 「1.2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度活用しましたか」(肯定割合34.8% 全国との差4.2%)
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」(肯定割合81.0% 全国との差9.4%)
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」(肯定割合73.4% 全国との差7.8)
- 「国語の授業内容はわかりますか」(肯定割合84.6% 全国との差7.0%)
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」(肯定割合92.8% 全国との差4.8%)
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」(肯定割合87.7% 全国との差10.3%)
- 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」(肯定割合72.9% 全国との差8.5%)
- 「数学の授業の内容はよくわかりますか」(肯定割合67.2% 全国との差-6.7%)
- 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」(肯定割合85.1% 全国との差8.9%)
- 「英語の勉強は好きですか」(肯定割合45.2% 全国との差-10.8%)
- 「英語の授業はよくわかりますか」(肯定割合55.9% 全国との差-10.1%)
- 「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」(肯定割合90.8% 全国との差5.4%)
- 「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」(肯定割合39.0% 全国との差5.2%)

宇都宮市立若松原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
毎日10分間「朝の読書」の時間を確保する。	自分で読みたい本を用意し、毎朝10分間読書に取り組む。	「読書は好きですか」という質問に対し、本校の肯定割合が78.0%と全国平均の肯定割合よりも10.0%多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
勉強が好きか、授業内容を理解しているか等の各教科に関する質問の肯定割合が低い。	個別の補充学習や学習相談の計画と実施。	昼休みや放課後を利用し、学習を苦手とする生徒への個別学習の実施。 放課後の定期的な学習相談の実施。

(HP公表)H31全国学力・学習状況調査(ここに入力).xls の互換性
レポート

2019/11/7 15:20 に実行

このブックを以前のファイル形式で保存した場合、または以前のバージョンの Microsoft Excel で開いた場合、一覧表示されている機能は利用できなくなります。

再現性の低下

出現数

選択したファイル形式でサポートされていない書式が、このブック内の一部のセルまたはスタイルに設定されています。このような書式は、選択したファイル形式で利用できる最も近い書式に変換され	5
--	---

バージョン

Excel 97-2003